

Title	センター長退任にあたって
Author(s)	松田, 治和
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1993, 89, p. 2-2
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/66011">https://hdl.handle.net/11094/66011</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# センター長退任にあたって

松田 治和

はからずも平成2年4月からセンター長を仰せつかってはや3年が経ち、この3月末日停年退官とともに、無事任期を終えさせて頂きました。この間に、大阪大学は申すまでもなく、関係各位様から暖かいお力添えを頂き、深く謝意を表したいと存じます。

3年前の就任時には、日米間の通商協議がまさにやま場を迎えていた時期で、長年の懸案としてスーパーコンピュータの更新を待ち望んでいた当センターにとっても、張り詰めた緊張感をもってその推移をみつめておりましたが、国際的な導入手続きが合意に達して以来、まさに透明、開放的かつ無差別な国際入札を実施し、当センターにもようやく6.4 G F L O P Sの演算速度をもつ新鋭マシンがこの2月初めから稼働し始めました。加えて汎用大型機の更新準備も着々と進んでいる状況で、計算機に関してはかなりの整備が進んだと言えましょう。次世代の超並列コンピュータの検討もちらほら出ております。

しかし、当センターがお世話役をつとめている全学的にご要望の高い総合情報通信システム(O D I N S)設置の予算要求は、まことに遺憾ながら平成5年度は認められず、心残りのまま次年度要求に期待せざるをえない状況となりました。

一方、近年における世界的情報化時代の波と、パソコン、ワークステーションの目を見張るような普及は、私の在任した3年の間だけをみても驚くべきテンポであったと言えます。当センターも1969年に共同利用機関として制度化されて以来、全国7大学のセンターとの密接な連携のもとに、先端科学技術の研究推進に重要な役割を果たして来ましたが、上記のような研究環境をとりまく新時代に向けての変化は、おのずから大型計算機センターの担うべき役割にも変化を求めつつあるように思えます。単に大規模計算の処理だけでなく、グローバルな情報通信ネットワークの中核基地としての幅広い使命が増大しつつあります。すなわち、学術ネットワークは従来のN-1ネットワークから新しいIPネットワークに移行しつつあり、全国7大学の共同利用センターが中心となってそれぞれの地域ネットワークを整備しつつあります。わが第六地区におきましては、当センターが中心となって、地域ネットワークO R I O N Sの整備に当たらなければなりません。

このような情勢にあって、情報システム工学の専門家を後任センター長に迎えることとなり、たいへん心強く存じています。そして加えて研究開発部の優れた教官陣と情熱あふれる事務部職員の方々が、一丸となって変貌しつつある新しいセンターの充実発展のためにご活躍くださる事でしょう。

ご関係各位様の相変わらぬご支援をお願いし、退任のご挨拶といたします。